

令和 2 年度事業実績報告

社会福祉法人六三四

目 次

令和 2 年度各事業実績報告

- 1、 本部・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2～
地域支援部・・・・・・・・ P 4～
- 2、 生活リハビリセンター六三四・ P 5～
- 3、 生活リハビリセンター雅・・・・ P 8～
- 4、 生活リハビリセンター絆・・・・ P 10～
- 5、 デイサービスセンター絆・・・・ P 13～
生活支援部・・・・・・・・ P 14～
- 6、 六三四ホーム（青粋・彩）・・ P 15～
- 7、 お結び・・・・・・・・・・・・ P 17～
相談支援部・・・・・・・・ P 19～
- 8、 スカイサポートセンター・・・・ P 19～
収益事業・・・・・・・・ P 22～
- 9、 不動産賃貸業・・・・・・・・ P 22～

【令和2年度 社会福祉法人六三四 本部事業実績報告】

1. はじめに

今般、政策動向ならびに社会福祉を取り巻く状況が目まぐるしく変化する中で、福祉施設に共通する課題の抽出、対応を図るべく令和2年度において内部改革を推進してきたところである。そのような中で、新型コロナウイルスは世界に多大なる感染拡大という被害を与え未だに終息の兆しがみえない状況であり、今後も引き続きの対応を迫られている状況下である。現在も、感染症対策を実施しながら必要な衛生物品の確保に努め感染症対策を徹底した上で、必要なサービスを提供する体制を構築する必要がある。

また、令和2年度末までに各地域において親なき後を見据えた「地域生活支援拠点」の整備が求められてきたが、平成31年度4月1日時点で整備済みと回答した自治体は332市町村(全国1,741)と全国的に2割程度にとどまっている状況である。本年度、このコロナ禍も影響してか整備が進捗していない現状であり、厚生労働省は令和5年度末を目指して事業の推進を図っている状況である。しかしながら、令和元年度・令和2年度と必要不可欠な事業の拡充を進め地域における拠点としての機能を最大限活かせるように整備を進めてきたところである。また、小平市及び東村山市地域自立支援協議会への関与を強めて、制度の具体的な施行や見直しに関する情報収集及びその対応検討と実行等、各分野の諸改革に更なる対応していくための準備を進めている。今後とも、障がい者の地域生活を支え、障がい児支援のニーズの多様化へのきめ細かな対応がより一層求められている。

<令和2年度取組み重点項目>

1、施設整備計画

- ① 特別支援学校等、卒後の問題は地域にとって深刻な影響が出てくるのが容易に想定される。また、コロナ禍において十分な実習受入れができない状態である一方で施設の定員が、超えてしまっている現状と地域生活支援拠点を見据えた上で、さらなる整備計画の立案実施していくことが緊急課題である。
- ② 施設整備に係る資金の創出については、障害者通所施設等整備費補助金の交付決定を受け新規事業計画を推進。

2、管理職育成計画

- ① サービスの質の向上を目指し、職員への適正指導や広い視野で物事の見極めが重要となってくるため、管理職向け研修等を実施し、その都度自覚と責任、そして緊張感をもって業務に就くことの再徹底と、引き続きのコンプライアンス及びガバナンス強化を図る。

- ② 利用者家族ニーズの実現に向け、幅広く対応がとれるようフォーマル・インフォーマルも含めた洗い出し作業の強化と包括的な支援の再構築を行う。
- ③ 地域ニーズの把握や分析を行い、活性化を目指すほか大きな目的として、地域への理解啓発多職種連携をテーマに掲げて連携強化を図ってきたところである。引き続き、精力的に進めていくことが必要である。

<令和2年度成果と課題>

【成果】

①職員採用実績：

「新型コロナウイルス感染症に係る障害福祉サービス等事業者に対するサービス継続支援事業」を活用した採用活動を行い多数の応募者があり、3名の採用担当職員による迅速な対応の結果、面接数・採用数の大幅な増加につなげることができた。

有料媒体掲載回数 23回 掲載費用 1,881,000円

応募者数 263名、面接数 103名、採用数 36名、定着数 25名

②職員全体研修会報告

職員のスキルアップを目的として、全事業所の職員を対象とした研修会を計画・開催した。専門的な知識と技術の獲得が求められていることを意識づけ、サービスの更なる向上を目指している。感染症対策として、リモートでの開催となった。

第1回

日時：令和2年8月27日（金）

テーマ：「リハビリテーション医学・医療」

講師：社会福祉法人六三四理事長兼喜平リハビリテーションクリニック院長
山口明氏

総括：リハビリテーションの語源や、現在における地域リハビリテーションの存在意義と課題について講義を受け、疾病や障害があっても、その有する能力と可能性を最大限に生かし、身体的心理的社会的に自立できるよう多角的に支援していく必要性を学んだ。

第2回

日時：令和2年11月27日（金）

テーマ：「もし自分だったら」を考える ～虐待防止研修～

講師：NPO法人ともにネット理事長 藤内昌信氏

総括：不適切な支援について深く考える機会をもち、職員ひとりひとりが自分自身の日々の支援を振り返り、対応方法の知識を得たり環境を調整したりすることの大切さを学んだ。

③人事考課

非常勤職員に対しては、各職員が自己評価を通して振り返りを行いスキルアップに結び付くよう新たな自己評価表を取り入れ、評価するにとどまらず、指導にも活かしていく。常勤職員においては、個人の目標の明確化と達成していくための自己分析を重視し、令和元年度より導入している評価ガイドラインに基づいた評価を行っている。

【課題】

①3名の採用担当職員による迅速な採用活動の結果、多数の職員を採用することができたが、入職後1年未満の職員が各事業所に複数名配属されており、新規職員の教育と定着に向け更なる指導方法の仕組みの構築が必要である。

②職員全体研修会において、職員のスキルアップを目指し、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に努めながら、引き続きオンラインでの開催も視野に入れて取り組む。当日欠席した職員に対しては、資料を配布し報告書の提出を求めているが、出席した職員との間の意識や知識の乖離を埋める取り組みが必要である。

③職員への的確な指導や適正な評価を実施するため、指導担当者や考課担当者のレベルアップが重要である。

【総括】

令和2年度本部機能として、政策動向ならびに社会情勢変化に対応するべく情報収集の徹底、BCPの作成及び分析を実施して計画的に事業の推進を図ってきたところである。また、社会福祉法人としても地域福祉の礎になるべく内部統制を図り、質の高いサービス向上に努め地域のための法人として意義・意思を内外に示さなければならない。また、職員採用と職員の育成においても関係各所と緊密に連携を図り、その結果を数値化しながら分析を行う他、更なるスキルアップを図るべく内外研修に力を注ぎ支援力のアップに努めていくことが重点課題である。

【令和2年度 社会福祉法人六三四 地域支援部事業実績報告】

はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、経済や日常生活に大きな影響を及ぼし、本人やその家族の生活を支えるために、通所の場合は必要不可欠なものであるため、最大限の感染症対策を継続的に行いつつ、必要な物資を確保するとともに感染症対策を徹底した中でのサービス提供、感染症の拡大防止に努めながら活動の維持を模索しな

ければならぬ難しい事業を強いられた1年となった。

令和3年度報酬改定では、障害者の重度化・高齢化、医療的ケア児や精神障害者の増加などに伴う障害児者のニーズへの対応、サービス利用の中核となる相談支援に係る質の向上等が示され、現状を見据えた上でサービスの質の向上が求められている。新型コロナウイルス感染症に関しては、必要なサービスが安定的・継続的なサービス提供を実施すべく、今後も感染症への対応力を強化し、感染症対策を徹底しながら、体制を確保する必要がある。

【令和2年度生活リハビリセンター六三四事業実績報告】

はじめに

令和2年は、新型コロナウイルスの影響で失業者が増えた年であった。多くの人々が失業や収入減に生活困窮者が増えている状況の中で介護職への人材不足が続いている。新型コロナウイルスの影響で仕事を失った人が全国で10万人を超えており、有効求人倍率も悪化し転職を考えている人にも厳しい環境となっている。介護職の場合は令和2年も有効求人倍率が3倍を切る事がなく、コロナの被害が深刻になった令和2年5月でも4.15倍という高い有効求人倍率となっている。介護職は、2025年問題が迫り、今後も人材不足が深刻になると予想される。当施設でも重要課題である人材確保、育成のために福利厚生の実施等、職員が働きやすい環境を整え、求職者に選ばれる、職員が定着する職場となるよう努めていく必要がある。

事業概要（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

登録者数 38名（男性18名 女性20名 平均支援区分4.30 前年度平均支援区分4.12）

開所日数 256日

日々実績 1日平均通所者数22.66人 令和2年度3月31日実延べ人員5,800人

職員数23名（嘱託医1名 看護師6名 生活支援員14名 理学療法士2名）

常勤換算 10.9人

下半期の成果と課題

1) 革工芸以外の新しい創作活動、プログラムの形成を図る

【成果】現在新たな創作活動としてあんでるせん手芸をプログラムに導入しており多数の利用者様が作成に参加して頂いている。感染防止の為外出活動を一部自粛している現状であるが室内で体を動かす取り組み（集団体操）を継続実施することにより、利用者様の運動不足解消に努めた。

行事イベントでは、日帰り旅行を中止し、バルーンアート作成企画や、たこ焼きパーティー、食事イベント等行事を執り行い好評であった。

【課題】利用者様の年齢層が若くなっているため、高齢層の利用者様へのアプローチが少なくなっている。支援内容をより充実させ日中活動に選択の幅をもつ必要がある。

【課題に対する今後の取り組み】

メンバー懇談会や個人面談によるアセスメントを実施しニーズの把握をしていく。共通した喜びや楽しみを得るため、食を活かした行事や五感を刺激した活動を導入していく。

2) 個々の特性にあった日中支援の実施

・在宅生活の維持を視野に入れた日中支援プログラムの確立。

【成果】家庭訪問や利用者様と家族を含めた面談や担当者会議の出席、電話によるモニタリング等を実施し、利用者様の在宅の課題を把握することができ、今後の家庭環境や生活面を含めた課題の把握ができ必要な支援体制の確保に努めた。

【課題】利用者様の主介護者であるご家族の高齢化が進み、在宅生活の維持が困難になっていく可能性がある。

【課題に対する今後の取り組み】

将来的な生活を見据え、当法人のショートステイおむすびを利用するなど自宅以外での体験機会を促していく。在宅での健康状態、身体状況の把握に努め理学療法士を交えた在宅生活支援プログラムの構築が必要である。

3) 地域貢献・地域社会参加を目的とした活動の継続・強化

・近隣散歩や清掃活動に参加できる機会がない利用者様も積極的に外出する機会を設け地域社会との共生を目的とした参画支援に力を入れていく。

【成果】ショッピングモールへの外出は感染防止の為に中止している。近隣清掃や近隣散歩等外出支援は、気分転換やリハビリ機会の確保として継続的に実施している。ほか、熊野宮神社、商工会、青年会議所等の軽作業等を通して地域貢献活動に取り組みを図った。

【課題】コロナ禍であり、地域交流機会が減少している。

【課題に対する今後の取り組み】

個別性や年齢層に合った取り組める活動内容を模索していく。近隣保育園や、小学校等交流機会を確保し、日常生活にメリハリと活性化を図る。

4) 職員の支援能力の向上

・職員のスキルや質の向上を目的とした勉強会を開催し日々の支援への活用、障害特性の理解・支援能力を高める。

【成果】職員全体会議にてリハビリテーションについて、虐待防止について研修会を開催した。各職員が自分自身の支援のあり方を振り返る良い機会になり対応能力を向上することができた。トラブル報告書、ヒヤリハットの件数や重要事例を取り上げ、全職員にてリスクマネジメントをし、再発防止に対する意識を高めることができた。

【課題】様々な障害特性に対応できるスキルを身に着ける為にも内部研修だけでなく、外部研修にも参加し幅広い知識を得る機会が必要である。

【課題に対する今後の取り組み】

常勤職員が積極的に外部研修に参加できる体制を作り上げていく。研修で得た知識を施設内会議等で各職員にフィードバックしていき施設全体のスキルアップに繋げていく。

リスクマネジメントを継続実施し職員の事故防止に対する意識を高めていく。

次年度計画の構成

- 1) より満足度を追求したサービスの提供
- 2) 専門職と支援員の連携強化した個別訓練やリハビリの推進
- 3) 職員個々の統制を図るためのチームケアの推進
- 4) 在宅状況の把握及び家族のニーズの把握に努める
- 5) 地域、他職種との関係強化
- 6) 法令順守の業務体制の確立

次年度計画の推進

- 1) 年齢層、障害特性に応じたプログラムの構築を図るため、創作活動や運動活動などグループ化を図る
- 2) 病状に合わせ特化した個別訓練やリハビリの実施、支援内容の充実を図る
- 3) 事業所会議や個別面談を実施し、事業目的の理解、職員個々の統制を図るためのチームケアの推進を図る
- 4) 可能な限り、丁寧なアセスメント及びモニタリングの実施をしつつも、確実なる情報収集を図るため、家庭訪問を実施した上で在宅状況の把握及び家族のニーズの把握に努める
- 5) 商工会やイベント等の地域活動への参加により他職種の人々と交流を図る。地域のニーズの把握や外部からの情報量の増大を図る
- 6) 福祉事業者コンプライアンス研修や虐待防止研修等に参加し、知見を広めて法令遵守の業務体制を確立していく

【総括】

生活リハビリセンター六三四では、コロナ禍でもこれまでの活動ノウハウを活かして利用者様とともに作り上げられる生活様式及び活動様式の検討がなされてきたところである。具現的な一例として、バルーンアート作成企画や外部シェフを招聘した上で調理企画を実行し、今後の新しい行事プログラムへのアプローチとして大変参考となった。利用者様の心身の状況把握に努めるため、必ず月1度の事業所会議を実施しきめ細かな情報の共有を行った他、専門職員を新たに配置した上で質の高い医療ケアが実現できるように環境設定に努めてきたところである。令和3年度も引き続き感染予防対策を徹底し、コロナ過であっても当施設の明るい風土を失わないよう新しい行事や活動プログラムを計画実行し、地域社会との共生を目的とした社会参画のあり方を模索していく。また、より一層利用者様

及びご家族様とのコンタクトを密にし迅速かつ適切な支援体制の構築を図る。

【令和2年度 生活リハビリセンター雅事業実績報告】

・はじめに

令和2年度は、令和2年4月16日に、全国を対象として新型コロナウイルス感染拡大の状況から政府より緊急事態宣言の発令が行われ、感染症対策など新しい生活様式の必要性を考える1年となった。また、令和3年2月17日に新型コロナウイルスワクチンの接種が始まったが、全国民の接種には多くの時間を要す見込みとなっており、令和3年度についても感染拡大防止への対応の継続や意識が必要不可欠となっている。

生活リハビリセンター雅では、感染症対策に徹底して取り組むことで当初計画通り256日の開所が行えた。しかしながら、急速に広がった新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会変化の中で、例年取り組んできた関係事業所との連携による短期入所利用時の日中活動機会の確保が外出自粛のため行えず、利用者様の活動量の低下が懸念された。また、年間行事においても日帰り旅行などの外出行事が中止となったが、屋内で行える活動の充実を軸に利用者様の満足度向上に努めてきたところである。

地域特別支援学校卒業後の受け入れ態勢の確保、地域ニーズや障がいの多様化と重度化に伴う、内部・外部研修による専門知識・支援スキルの底上げに継続して取り組む。また、設備の拡充・看護師の手厚い配置体制の確保に力を入れ、地域の受け皿となれるよう今後とも事業の推進を図る。

事業概要	(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)
登録者数	16名 (男性8名 女性8名)平均支援区分5.75(前年度平均支援区分5.78)
開所日数	256日
日々実績数	11.87人 令和2年度3月31日実延べ人員3,039人
職員数	18名 (嘱託医1名 看護師2名 生活支援員13名 言語訓練聴覚士2名)
常勤換算	11.6人

下半期成果と課題

1) 重度障がいの方や医療ケア等は、事業所のスペースを活用して支援を行っているが、引き続き医療ケアの必要性は高まるため、障がい特性、リハビリテーションについての専門知識や支援スキルの向上が必要である。

【成果】 個々利用者様の障がい特性に応じマット上での活動時間を増やすことで、褥瘡や関節部の拘縮などの予防に努めた。法人全体研修では、外部講師を招聘し、リハビリテーションの基礎知識研修並びに虐待防止研修にて専門知識や支援スキルの向上に取り組んだ。当事業所では、新型コロナ感染の懸念により、通所を自粛されるケースについて、利

利用者様・ご家族様の体調把握、在宅でも行えるリハビリの推奨、不安に対する傾聴支援等を実施し、必要時には在宅への訪問支援を行い、令和2年度通して102名の自粛支援に柔軟な対応で取り組んだ。

【課題】 新型コロナ感染拡大の懸念から外出行事などが中止となった。また、定期的な利用者様・ご家族様との面談や家庭訪問など対面での聞き取りについても、積極的に取り組むことはできなかった。

【課題に対する今後の取り組み】 施設内部での食事会などを計画・実施に取り組むことで利用者様の満足度の向上に努める。また、電話連絡等の回数を増やして在宅状況などの情報共有を小まめに行い、利用者様・ご家族様のニーズを反映させながら、安心したサービス提供につなげる。

2) 多様な障がい特性に応じる必要があるため、職員体制や環境整備を図る必要がある。また、医療機関や専門職と密接した関係を確立し受入体制の構築を図る。

【成果】 床走行式リフトの導入や看護師など専門職員の確保へ力を入れ、多様な障がい特性に応じて、医療ケアへの対応や各種リハビリ訓練を充実させ、地域の受け皿として環境整備に取り組んだ。

【課題】 地域短期入所利用時の当該事業所への通所が外出自粛のため行えず、利用者様の活動量の低下が懸念される。

【課題に対する今後の取り組み】 関係事業所、専門職やご家族様と連携して、病状や障がい特性等の情報共有を行い、マット上での体勢や身体の見守りや取り組みを増やすことで身体機能の維持に努める。

次年度計画の構成：目標実現のための計画策定

① 専門的意識を持ち支援やプログラムの充実を目指していく。

令和3年度取り組み：研修をとおり専門性・支援への意識を高め、各種プログラムの試行をおこない個々のスキルアップに努める。

② 家庭環境の把握及び必要な支援について取り組んでいく。

令和3年度取り組み：家庭訪問以外に感染症ウイルス対策とし、電話連絡やインターネットを活用し在宅状況の把握に力を入れ、安定した通所に繋げていく。

次年度計画の推進

5ヶ年数値目標についての年間計画

① 利用者様・ご家族満足度の向上

屋内での日中プログラムの構築に力を入れ、メンバー懇談会月1回、個別支援計画作成時等の聞き取りを年2回行い家庭訪問についても実施していく。

② サービスの質の向上

医療的ケアの研修へ参加し、知識やスキル向上に繋げる。令和3年冬季を予定。

北多摩北部地域高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会主催市民交流事業への参加により知識やスキル向上に繋げる。

③ 地域、他職種との関係強化

小平市障害者団体連絡会に参加することで地域のニーズを知り外部からの情報量を増やし活動の充実に繋げる。小平市青年会議所に参加することで地域のニーズを知り、外部からの情報量を増やし活動の充実に繋げる。緑成会病院主催地域連携交流会等インターネットでの研修に計画的に参加することで、医療をはじめ地域他職種との連携、情報収集を行い知識を高め、スキルアップに努める。

【総括】

生活リハビリセンター雅では、令和2年4月1日から令和3年3月31日現在の登録利用者数は16名、日々実績数は11.87人となっている。当初の目標値10.5～11人を超えての受け入れを行っている状況下である。限られた活動スペースの有効活用、新規プログラムの構築に向けた試行回数を増やすなど個々利用者様に沿った活動が出来るよう努めた。結果、4月より新たな卒業生の受け入れが可能となった他、職員間での情報伝達やスキルアップ向上の機会の提供に努め質の高い支援スキルを身につけられる環境化を構成することが可能となった。また、多様な障がい特性を有する利用者様を主とする当事業所では、医療職員の増員や設備の拡充を促進した上で、医療ケアなどに対する環境整備を図ったところである。専門性を活かした活動内容及び医療ケアを提供することにより、より一層のニーズの実現に近づく年度となった。また、専門活動ではミュージックセラピーなど代表的な取り組みの中で、対象者の五感を刺激する事業内容に取り組むことでリハビリテーションとしての意義ある活動へと連結されたと同時に、煩雑さも目立つ結果となった。次年度は、前年度をふまえつつ引き続き丁寧なアセスメントを実施した上で本来ニーズに沿った活動プログラムの構築を急務として実践していくことが必要不可欠である。

【令和2年度生活リハビリセンター絆事業実績報告】

はじめに

我が国において、新型コロナウイルス感染症は令和2年1月15日に最初の感染者が確認された後、令和3年3月31日各自治体が公表している感染者数（陽性者数）を集計した結果、感染者は472,366名、死亡者9,159名となった。新たに感染力が高く免疫が働きにくくなるとされる変異型コロナウイルスも報告され感染者数は日々増加している状況がある。感染者増加による医療体制が逼迫している中、まん延防止や水際対策を講じると同時に、介護現場においては感染症の知識や対応方法等の理解や周知、現場における感染症への対応力を向上し、サービスの継続が求められている。

令和2年度の活動内容については、新型コロナウイルスの影響により近隣保育園との交流会など対外的な行事は中止となったが、感染予防と最小限の計画変更に留め、各行事を

実施した。令和3年度も、感染症予防・感染症対策を講じ、新たな生活様式に合わせサービス提供を継続し、活動や支援の充実・満足度の向上を目指し取り組んでいく。

事業概要 (令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

登録者数 24名(男性11名 女性13名 平均支援区分 4.29 前年度平均支援区分 4.19)

開所日数 256日

日々実績 1日平均利用実利用者数 17.18人 延べ実利用者数 4,399人

職員数 14名(嘱託医1名 看護師 1名 生活支援員 12名)

常勤換算 9.3人

下半期の成果と課題

1) 日中活動プログラムの更なる安定と新規プログラムの構築

・革製品販売に合わせて、紙すき・手芸・工芸の製品活動を実施した上で実用化を行う。

活動プログラムの固定化、年間行事の充実を目指す。

【成果】 心身リハビリの一環として日々、午前中には屋外での散歩やラジオ体操などを取り入れ、体を動かすことを重点に活動を行っている。また、午後には屋外で活動をされる方、屋内で活動される方とグループ分けを行い、個々利用者様に合った支援につなげている。午後に新規プログラムとして取り組んでいる落ち葉拾いや草刈りのプログラム化により、近隣住民との交流が活発になり、社会参加の機会へと繋がった。また革細工のプログラムについては、職員の制作スキルが上がるにつれ、利用者様への支援が安定し利用の充実につながるきっかけとなった。活動が定着したことで時間軸のメリハリが出来、身体機能維持だけではなく、精神状態の安定にも効果があった。

夕方支援は月2回実施していたが、現在は感染予防の観点から日中に実施している。手作りおやつや楽器を奏でながら歌を歌い楽しむことにより利用者様の意欲向上だけでなく、ご家族様に対するレスパイトにもつながっており継続性をもって実践していく。

【課題】 利用者様が活動時に見通しを持って取り組むことが、職員の知識や経験が浅いことで実施出来ていない時もあるため、精神症状が不安定となる状況が生じた。

【課題に対する今後の取り組み】

個々利用者様の病歴や障がい特性を理解する為、アセスメントや個別支援計画を用い事業所でのケース検討を行う。また、外部による各種研修を受講し、行動障がいや重複障がいについてスキルアップを図り支援幅を拡げていく。

2) アセスメントの強化

・家庭訪問や面談にて、家庭状況を丁寧かつ細部まで把握し緊急時等速やかな対応が取れるよう、計画相談、短期入所事業所と連携を行う。

【成果】 各市行政や計画相談、短期入所事業所等との密な情報共有を行ったことで、家庭

状況の変化も速やかに対応を行うことができ、在宅生活を継続できる包括的な支援につながった。また、コロナ過の中でも可能な限り感染対策を実施し把握に努めたところである。

【課題】数年後の家庭状況や8050問題も含め勘案する中で、ご家族との将来的に必要なになるであろう支援を擦り合わせる事が不十分な状況となっている。

【課題に対する今後の取り組み】

家庭訪問や面談にて、ご家族との関係構築に努め、関係機関と連携して情報収集を行い、包括的な支援が出来るよう取り組む。また利用者様の将来を見据えショートステイでの体験を推進し、地域生活支援拠点等の支援体制とバックアップ支援体制の構築を行う。

3) 業務についての役割分担の明確化

- ・他事業所や地域交流会を通して情報収集し、業務の効率化や質の向上へ取り組んでいく。

【成果】業務の効率化については、各月に行われる事業所会議にて役割分担を行っている。また業務の均一化を図るため、日中業務について各職員取り組んでいなかった業務も引継ぎを行い出来ないことが無いように取り組んでいる。また、床走行式リフト・シャワートロリーを購入し、利用者様の身体状況に合わせた介助方法を実施。安楽な姿勢の維持と、安全な介助を実現でき支援方法の統一を図った。

令和2年度はコロナ禍ということもあり、近隣保育園との交流会が実施できなかったため、可能な限り利用の充実と共に地域社会の一員として社会参加のきっかけ作りを推進していく活動様式を考える機会となった。

【課題】可能な限り、利用者様が主体的に活動できる機会の提供を図る。

【課題に対する今後の取り組み】

感染症対策に基づきリスクマネジメントを事業所会議にて検討し、未然に感染症や三密を避け事故やトラブルにならないよう取り組む。またメンバー懇談会等で聞き取りを行い、計画実施時には積極的に参加していただけるよう役割を担っていただき利用の充実につなげていく。

次年度計画の構成

- 1) 行動障がいや重複障がいの方への個別支援の確立及び再検討の実施と実践
- 2) 積極的な地域との交流の推進
- 3) 利用者・家族の満足度の向上
- 4) サービスの質の向上、職員のスキルアップ
- 5) 地域、他職種との関係強化

次年度計画の推進

- 1) 強度行動障害研修への参加を促進し、知識やスキル向上につなげ、他職員においても事業所会議にて共有を行い、個別支援の確立を目指す。
- 2) 本年度は更なる地域交流を求め、近隣清掃や交流会を通じ、地域社会の一員として社会

参加を目的に取り組む。

- 3) 屋内外日中プログラムの固定化に向け、メンバー懇談会や個別支援計画作成時等の聞き取りを行い活動の充実につなげる他、得た情報を速やかに分析検討、実施した上で職員間共有を図る。感染予防に対して車内が密にならず利用者増員に対応できるよう車輛整備をし、送迎車の拡充を行う。
- 4) より一層丁寧な聞きとり調査を実施するべく家庭訪問や面談を通じて、アセスメントを強化し、家族支援や居住での生活状況の把握を行い、将来を見据えた包括的な支援を図る。
- 5) 地域各団体が主催する交流会等に参加して、地域のニーズ把握を行うと共に医療をはじめ他職種との連携、情報収集を行う。

【総括】

生活リハビリセンター絆では、令和2年度中においては利用者登録者数が24名となった。利用者数の伸びと同時に支援体制が構築されていなかったこともあり、下半期において丁寧な支援が行き届かなかったことが最大の課題である。また、入職者においても一年未満の経験値職員が多数在職しており情報共有及び反映に時間がかかってしまったことが猛省すべき点であった。活動プログラムにおいては、屋内外での活動グループ分けを実施し、個々利用者様へ支援が行き届く様取り組んできたところである。また、活動の充実に向けプログラムの試行の回数を増やし、個々に合った活動の選定が行えたのが評価すべき点であった。現在、内容の安定化について定着しつつある一方で、引き続き職員間での情報伝達及びガバナンスの強化に努めており、その定期評価も同時進行しながら支援体制の構築を図る必要がある。次年度は、令和2年度に定着しつつあるプログラムの安定化は継続しつつ、利用者様本人がやりがいや楽しみを持てるよう行事やプログラムの計画、実践及び分析を行う。また個々利用者様・ご家族が安心して地域で暮らしていけることを目的に、福祉、医療関係者、教育機関などと協働し、将来を見据えた支援を推進していく必要性が求められている。

【令和2年度デイサービスセンター絆 事業実績報告】

はじめに

介護保険制度と障害福祉制度、それぞれにおける、従来からの制度を見直し、包括的に対応する支援体制へと移行した介護と福祉の一体化の推進、限られた人材の確保及び効率化をめざし、地域のニーズや実状に応じたサービスが提供できる仕組みの構築を目的に共生型が導入された。

共生型通所介護を開所し実績がない状況があるが、行政機関等諸官庁と共有を行い、事業実施体制の確立を図り、障害福祉サービスから介護保険サービスへスムーズな移行を実施

していく必要がある。

事業概要（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

登録者数 0名

開所日数 0日

日々実績 1日平均通所者数0人

職員数0名（嘱託医0名 看護師 0名 生活支援員 0名）

常勤換算 0人

下半期の成果と課題

1) 保険情報や請求事務、利用書類等より詳細に運営体制や事務体制の基盤の確立

【成果】

対象利用者数0名のため業務開始には至っていないが令和2年5月1日より小平市共生型介護予防通所サービス指定申請受理。利用者受入に対し柔軟な体制整備を実施。次年度に向け体制強化を図る。

【課題に対する今後の取り組み】

東京都福祉保健局、小平市障がい者支援課、高齢者支援課、居宅介護支援事業所と共有を行い、事業実施体制の確立を図り、障害福祉サービスから介護保険サービスへスムーズな移行を実施していく。

【令和2年度 社会福祉法人六三四 生活支援部】

はじめに

生活支援部ではグループホーム事業（六三四ホーム）や短期入所事業（お結び）を通し、様々な課題が浮き彫りになってきている。利用者の健康状態（ADL）の低下や重度の利用者の増加、グループホーム利用への希望者の増加、365日開所型のグループホーム利用の希望、そして利用者を取り巻く家庭環境の複雑化など多岐にわたる。令和2年度の事業実績を踏まえたうえで、利用者、地域の福祉ニーズに答えていく必要がある。グループホーム・短期入所事業を安定化し、社会福祉法人六三四を利用希望される方の居住面や夜間支援面の受け皿として、生活支援部の機能充実が必要とされている。

令和2年8月に新規ユニット（彩ケアホーム）を開設した現在、小平市や近隣市地域を取り巻く運営環境としては、令和3年4月に行われる介護報酬の改定や、介護人材の不足が顕著になっており、地域コミュニティの担い手不足、近隣住民との関係の希薄化など様々な課題を抱えているのが現状である。地域移行の推進面からも依然地域でのグループホームのニーズは高く、事業活動を通じて「ノウ・ハウ」の蓄積に努め職員の支援能力や対応能力のスキルアップ、ボトムアップを行い「質の向上」を目指すことが必要となる。

【令和2年度 六三四ホーム事業実績報告】

拠点名 六三四ホーム
 ユニット 青粋ケアホーム・彩ケアホーム
 期間 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで
 定員 8名 (令和2年8月より4名から8名に変更)
 利用者数 8名 青粋ケアホーム4名 (男性3名・女性1名)
 彩ケアホーム 4名 (女性4名)
 支援区分内訳 青粋ケアホーム (区分6:1名 区分5:2名 区分2:1名)
 彩ケアホーム (区分6:1名 区分5:3名)
 合計:区分6:2名 区分5:5名 区分2:1名
 利用者の日中通所先:生活リハビリセンター六三四、生活リハビリセンター絆
 夢風船、ワークセンター夢の樹、夢の樹みどり、リズム工房
 ベストケア、(併用利用のため重複あり)
 開所日数 青粋ケアホーム358日(夜間支援308日)
 彩ケアホーム 231日(夜間支援231日)

曜日別の夜間利用率 (%)	事業所合計:82%							平均
	月	火	水	木	金	土	日	
青粋ケアホーム	93	96	97	94	58	/	54	82
彩ケアホーム	96	97	94	77	75	68	74	83

職員数 18名 (常勤4名 非常勤14名 男性8名 女性10名)
 常勤換算 世話人 5.0人 生活支援員 2.6人)

【下半期の成果と課題】

- ご家族、関係機関、ホーム職員で入居者様の情報を共有し、入居者様の健康状態を把握し生活の質の向上に向けて支援できるよう取り組む。
- 入居者様の健康状態の悪化に備えたホームでの支援・対応機能の拡充

【成果】

コロナ禍の中であったが、令和2年8月にユニット増(彩ケアホーム)が新規開設され定員も倍増したが、利用者様で体調を崩して入院することもなく運営を行うことができた。引き続き、身体障がいにて化した六三四ホームの特色である日中事業所と連携した身体での取り組み(PTやST)を行っている。

【次年度へ向けての取組み】

- 1) 突然の体調不良などに迅速に気づき、しかるべき連絡や手配を行うことができるシステムを確立して、どの職員でも対応できるようにケース検討・ヒヤリハット検討に全職員の主体的な参加・意見交換を促す。ケース記録、業務日誌、業務引き継ぎノート、温度板(バイタル・食事量・摂取水分量)の記入と確認・引き継ぎの徹底を行う。並行して、障害理解を深めるため、各種研修の参加による職員の基礎力向上を目指す。ホームで行う行事が少なかったため、今年度は土・日などの日に近所への散歩、おやつ会のなどのレクリエーションを行ったところ好評であったため次年度も引き続き行う。コロナ禍であるが、感染に配慮しながらできるだけ日常の活動を行っていき利用者様の楽しみを尊重しつつ運営を行うことが必要であると考えられる。
- 2) 利用者の健康管理について健康診断や、それぞれの入居者様のかかりつけ医の受診

結果等を基に健康状態の把握に努め、ご家族、日中活動先、医療機関等との連携を密にし健康状態の把握、疾病の予防に努める。

【成果】

新たに2名の利用者様については嘱託医に相談し、訪問での診療に切り替えを行い、利用者様・ご家族の負担軽減を図ることができた。居室での診察のため医師よりの申し送りなども直接情報収集できるため利用者様の健康状態の把握と医師への連絡が柔軟に行うことができている。

【課題】 処方薬の受け取り、薬情報の管理

【次年度へ向けての取り組み】

- 1) 現在、4名中1名は自分で取りに行くことができているが今後に向けて安全に行けるよう、利用者様の状況を見ながらホームとして必要なサポートを行う。

○お結び職員とホーム職員の兼務

【成果】 お結びの開所日を定期的に設け、少しずつであるが利用者の受け入れを継続している。グループホームの職員にお結びと兼務してもらい、雅・絆の職員を中心に お結び利用者の情報共有を行い円滑な支援を継続している。引き続き職員の募集を行い、夜間勤務可能な職員は優先して採用していくことを採用担当者に伝え面接・実習を行う。

【課題】 職員体制の再構築

【次年度へ向けての取り組み】

- 1) 今年度新たに6名の職員を採用したが離職者も2名でており人員配置に余裕がなく、引き続き募集媒体の継続利用を採用担当者と協力しながら行う。新たな媒体を使い、経費を抑制しながら、職員の募集を行い、必要職員を確保するよう取り組みを行う。(縁故者や職員紹介などの活用)

○コロナウイルスによる緊急事態宣言の継続

【成果】 令和2年2月より発生したコロナウイルス感染症であるが、1年間に渡り感染対策を取りながらの運営であった。ホームにおいては幸いな事に利用者様・職員にも現在感染者・発症者は出ていない。引き続き検温・消毒・マスク着用を徹底し感染者を出さないよう取り組む。

【課題】 衛生機材（マスク・アルコール・感染防護服）の準備・備蓄

【次年度へ向けての取り組み】

- 1) 令和2年に入ってから小平市役所よりマスクの配布（不織布、国より布マスクの配布があったが現在はコロナ前に備蓄していた分を使用している。さらなる長期化が予想されるため今後は衛生機材の手配を早めしておく必要がある。関係機関・納入業者などと連絡を取り早急に手配を急ぐ。

【次年度計画の構成】 利用者様の健康管理、職員の育成・意識向上、事故防止

【次年度計画の推進】 利用者様の健康状態の把握（医療機関を含めた関係先との情報共有・情報交換を行う。職員会議回数を増やす、研修機会を増やす。ヒヤリハット報告書の活用職員間でのヒヤリハット情報のケース検討。

【総括】

コロナウイルス対策については法人の方針にならい対処し、現在は発生していない状況だが安心せずに、発生時の想定を行う（BCPの作成の推進）引き続き利用者様の健康管理に向けての取り組みを行い、健康管理に徹底する。青粋・彩ケアホームの利用者様は身体の介助度が高い利用者が多いため、体力低下や後遺障害が起こる可能性が高いため、入院した場合や退院してグループホームへ帰ってきた後の対応や介助についても予め予想しておく必要がある。しかし、このコロナ禍であっても、利用者様の楽しみをできる限り奪わないよう、可能な限りの余暇活動を模索し実行していきたい。

【令和2年度お結び事業実績報告】

定員	2名		
利用登録者	15名	(男性7名 女性8名)	平均支援区分 4.5
利用人数	7名		
開所日数	92日		
のべ利用日数	102日		
職員数	6名	(非常勤 男性職員2名 女性職員4名)	
常勤換算	1.2名		

【下半期の成果と課題】

○地域で生活されている方の多様化と緊急性に対応し地域のニーズに対応していく

【成果】

9月より開所日を増やすことができた。緊急的な受け入れも行き（内部利用者）支援を行っており回を重ねることにより質の向上を目指す。

【課題】

グループホーム職員との兼務のため、職員が不足しており暫定的の開所となっている。職員の増員と育成が急務となっている。

【次年度へ向けての取組み】

- 1) 採用を夜間勤務可能な職員を優先して採用する方針を確認しており順次採用できしだい、職員の養成に努めていき。お結びでの支援を兼務できる職員を増やしていく。グループホーム職員の勤務可能日数を再確認し1日でも多く開所できるよう取組みを行う。

○利用者が、その有する能力に応じ可能な限り居宅において自立した日常生活を継続できるように、利用者の心身機能の維持・向上ならびに介護を行う家族等の身体的および精神的負担の軽減を図る。

【成果】

日中系サービス事業所（六三四・雅・絆）とお結びの連携をはかり利用者の細かい情報（生活面等）の共有を行い、お結びでの支援で担当職員が戸惑うことがないように配慮をしている。受け入れ開始に伴い家族の介護負担の軽減に努めたい。

【課題】

居宅での状況に出来るだけ近づけられるよう努力を行っているが、職員も回数を重ね、支援状況は向上しており利用者様の継続利用につながっている。利用者の情報共有を本部職員が中心となって対応を行っている。

【次年度へ向けての取組み】

- 1) 利用者様のパーソナリティに近づき利用者様の変化に気づきがあったり、支援内容や引継ぎ事項にも変化が起こっている。引き続きグループホーム職員で日勤帯の勤務が可能な職員は研修として日中活動事業所への研修を通し、お結び利用予定者の支援に積極的に関わってもらい、支援の留意点（介助方法や利用者情報の共有について取組みを行う。グループホーム職員会議などでお結びの利用者情報やケースカンファレンス等を行い周知に努め、利用者様にショートステイを楽しみにして利用してもらえるよう努力していく。

○職員の育成・指導・研修体制

【成果】

職員間での利用者情報共有も徐々にすすんでおり継続する

【課題】

担当職員の兼務が難しくなるため、職員採用・育成が急務となる

【次年度へ向けての取組み】

- 1) 福祉人材フェアなどの積極的な参加をして職員の募集窓口を広げる、地域との連携（商店会）を通して職員の応募増を狙い取り組む。職員間でのミーティングを充実するため、職員会議・研修の回数を増やして、職員間の意見交換の回数を増やし支援内容の向上を目指す。

○給付費収入バランスの検討・必要に応じて改善する

【成果】

施設の稼働が半年経過し、利用状況によって収支状況の悪化が判明している

【課題】

単独型のデメリット部分、グループホームの兼務ができず職員配置（利用者1名に対して支援員1名）を行わなければならない給付費収入と人件費とのバランスが取れない。利用者様の大部分が身体障害のため支援員が身体介助技術の絶え間ない研究やスキルアップが肝心である。

【次年度へ向けての取組み】

- 1) 利用日、利用者様の組み合わせなどを検討し、支援員の指導育成介助技術の研修等

を行ったうえで、支援員1名で利用者2名（利用率100%）の支援を行うことができるように検討し、収支状況の改善を行う。

【次年度計画の構成】開所日数の拡大、利用率の向上、欠員部分の職員の配置

【次年度計画の推進】職員の採用・育成指導を行う。（開所日数、利用率向上）、運営費の収支バランスを考慮した上での職員採用を計画する。

【総括】

利用希望者も法人内各事業所より登録が増えており、今後は飛躍的に利用者が増えていくことが予想されるため、引き続き支援職員の養成、利用者様情報の共有を綿密に行い服薬事故などを未然に防がなければならない。グループホームと違い職員も毎回違う利用者様を支援するため、当たり前のことではあるが、報告・連絡・相談を基本とした利用者情報（体調・行動）の共有を行い運営にあたる。

【令和2年度 社会福祉法人六三四 相談支援部】

・はじめに

今後より一層、相談支援専門員のコーディネート力が求められ、地域に住まわれている障がい児者が、日常生活を送る上で障害福祉サービスを適切且つ、必要なサービスが利用できるよう相談、助言を行い障害者総合支援法に基づく計画相談支援及び障害児相談支援サービスを適切に提供していく。行政機関、教育機関、医療機関、介護保険事業所との連携を重視し、知識を習得し、支援幅を広げていくことが課題である。

【令和2年度 スカイサポートセンター事業実績報告】

登録者数：特定相談支援事業所 37名（男性17名女性20名）小平市 26名 小平市外 11名

障害児相談支援事業所10名（男性8名女性2名）小平市 10名 小平市外 0名
職員数 2名（常勤職員兼務2名・男性2名 女性0名）

常勤換算数 1.0名

下半期成果と課題

1)緊急時や体験の場の確保

- ・地域生活支援拠点の体制や地域自立支援協議会の地域生活支援拠点事業の動向の把握に努める。
- ・緊急時の相談支援体制、受入れ調整など担えるよう短期入所との業務体制の確立を図る。
- ・体験の場への確保。将来的に支援が必要となる方など通所先や関係機関と調整し、優先的に利用を促していく。

【成果】

令和2年4月1日付で東村山市地域生活支援拠点事業所として協定を締結した。令和3年度には小平市地域生活支援拠点事業に関しても、協定締結に向けて取り組んでいく。緊急案件に関しては、行政機関、関係機関、教育機関と支援会議や、同行や訪問を実施している。社会福祉協議会、生活支援課、障がい者支援課、子育て支援課と連携調整も行き、迅速に対応が行えている。

法人内短期入所事業と連携し、緊急時を見越し体験利用の開始ができている。

【課題】

地域生活支援拠点事業については、各市区町村で実施方法が異なっており、各市に合わせた対応がとることができる事業所体制ができていない。

兼務体制で業務を遂行しているが恒常的な体制になっており、緊急時など事前に行動に起こせていない状況がある。

【課題に対する今後の取り組み】

地域生活支援拠点について具体的な取り組みを実施し、緊急時の受け入れ体制の確保など支援体制の強化を行う。地域自立支援協議会のワーキングや、研修など参加しスキル向上及び、連携機関の拡充をしていく。年度内に専任の職員配置を計画しており次年度は専任職員を中心とした体制で運営にあたる

2)質の向上

- ・相談機能向上を目標に、研修への参加
- ・自宅訪問や担当者会議、モニタリング等を的確に実施する。全加算要件のクリアを目標に取り組む。

【成果】

相談支援現任者研修に参加し、制度改正や支援方法等について学ぶ。小平市地域自立支援協議会のワーキングにおいて幹事事業所としてグループの統制を取り事業所や自立支援協議会委員との懇談、他自治体の委員との活動など連携強化ができた。

【課題】

研修受講による必要な加算取得が実施できていない。記録整備ができず必要な加算取得ができていない。

【課題に対する今後の取り組み】

加算要件を満たし、適正な報酬を得る。更新やモニタリング管理が煩雑になるため簡素化や見直しを図り適正に業務を実施していく。

3)関係機関との連携強化

- ・介護保険事業との連携強化。相談支援機能と居宅介護支援事業との業務連携の体制強化をしていく。

【成果】

地域包括支援センター主催 5 包括合同ケアマネ交流会に参加し、移行時の困りごとや

介護支援専門員と相談支援専門員の連携について意見交換や情報共有を行い、連携強化に向けて取り組み始めることができた。

【課題】

介護支援専門員の業務理解が欠けていたことにより、介護保険移行時の関係機関との情報共有が遅れてしまった。移行後のサポートや連絡がおろそかになってしまった。

【課題に対する今後の取り組み】

介護支援専門員の業務を理解し、交流会やケースを通して積極的に連携をしていく。知識を習得し支援の幅を広げていく。

次年度計画の構成

- 1) 新たな人員の確保と適正配置、地域支援の礎を形成する。
- 2) 緊急時の相談支援体制、体験の場への確保等、受入れ調整など担えるように業務及び体制の強化確立を図る。

次年度計画の推進

- 1) 人員配置及び、育成を計画的に実施していくため、相談支援初任者研修受講し、人数の増員に取り組んでいく。スキル向上を目指していくため、外部研修(自立支援協議会の研修等)に参加し横のつながりを意識した行動に取り組んでいく。
- 2) 家庭訪問や担当者会議、モニタリング等を的確に実施するため、管理方法の見直しを図り全加算要件のクリアを目標に取り組んでいく。
- 3) 介護保険事業との連携強化を図るため、ケアマネ交流会など交流機会を増やし、親と子支援や、介護保険移行、中途障がいの方による支援等、連携に取り組んでいく。

総括

下半期は、書類管理を整備し実施月にモニタリングを適正に行うことができたが、加算取得の為の研修受講は行えず、加算の為の記録提出は、数件しか行えない状況となってしまった。次年度は、研修の受講を行い加算取得を行い、担当者会議や事業所訪問など計画的に実施をしていく。今年度は、小平市地域自立支援協議会のワーキングにおいて他事業所や自立支援協議会委員、他自治体の委員と活動ができ、また 5 包括合同ケアマネ交流会に参加し、関係機関との連携強化が図れた。緊急ケースに関しては、法人内外、行政機関、教育機関と連絡をとり迅速に実施ができているが、事前に行動に起こせていない状況があるため、次年度は人員体制や業務の見直しに取り組んでいく。

障害児相談支援事業所では、市内中学校とも協力し、緊急的に必要な支援体制整備に向け連携拡充を行っている。継続して、緊急性を判断して対応をしており、セルフプランの提案や他の相談支援事業所に協力体制を持ちかけ対応を実施している。

【令和2年度 収益事業実績報告】

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症は、今般、国際的に大きな広がりを見せており、我が国においても第4波が懸念されている中で緊急事態宣言の発出は時間の問題となっている。新型コロナウイルス感染症は、拡大と収束が反復するなかで、社会全体で「新型コロナウイルス感染症との共存」を目指していく事が必要とされ、当事業においても、感染症対策の取り組みを強化・促進していくことが求められている。そのような中での事業においては、既存事業の法人所有の不動産を活用しての、不動産賃貸業を安定して進め、新規事業に関し新型コロナウイルス感染症との共生を見据えつつ、事業推進が最大の課題である。

【令和2年度 不動産賃貸業実績報告】

1) 施設整備

設備修繕と建物老朽化に伴う改築のため、収入額の5%~10%修繕費用の積立を行う検討。税理士より不動産賃貸業で積立を行うと、社会福祉事業に利益分の寄附がされないため、積立額と同等額の税金支払いが発生すると指摘があり、検討をおこなった。修繕積立金は行わず修繕費用等が発生した場合、不動産賃貸業内で費用の処理を行い、費用金額が年度内でまかなえないときは、年度をまたいで費用処理を行うよう対処していくことで概の方向性で進めていく。

契約の締結

- ① 契約法人 医療財団法人暁
- ② 契約期間 50年間の建物賃貸借契約

平成30年4月1日より令和50年3月31日まで

- ③ 賃借場所 社会福祉法人 六三四 小平仲町364番地1 敷地内
- ④ 契約料金 賃貸物件 70,000円/月額

駐車場 35,000円/月額

令和元年9月30日 合計735,000円

収益事業の現状と将来

- ① 不動産賃貸業として、入居事業所との関係性は良好であり、長期契約を結んでいる。また、法人内の別な事業所と協調体制を結んでいる。入居事業所にとって必要とされる賃貸物件であるよう努めていく。
- ② 新規事業の計画として、テーマの策定、研究の段階であり、今後よりニーズの高い

事業が地域より出てくる可能性があり、事業テーマの模索も続けていく必要がある。

次年度計画の構成

- ① 物品販売業の研究
- ② 製造業の研究
- ③ 飲食業へのアプローチと分析
- ④ F L Rコストの分析

次年度計画の推進

- ① 不動産賃貸の継続的な収益確保のため、入居事業所の情報収集と分析を行う。
- ② 新規事業の創設のため、必要な許認可の確認、費用の確認、設備の確認、必要な人材の洗い出しを行う。
- ③ 新規事業として、おにぎり工房及びその事業関連の研究をテーマとして情報収集を実施する。

総括

物品販売業、製造業、料理店業その他の飲食店業等あらたな収入源の確立として、研究と情報収集に努めた。経営者のセミナーに参加し販売・事業展開の成功事例や実践経験についての講義がなされる。研修では、お客が飲食店に求めている非日常的な空間の提供、店と客の常識の違いにより大きな差となっていくとの経験則を得た。今年度も飲食店業を中心として、F L Rの推移などを研究のテーマの中心に据えて研修等に参加し分析及び推進していく。

令和2年度 開所日数及びサービス対象者通所実績記録表

生活リハビリセンター 六三四

4 / 1 ~ 3 / 31 分

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
開所日数A	22	21	22	23	21	21	22	21	20	20	20	23	256	21.33
対象者延実人員B	424	477	493	530	496	502	524	511	444	428	451	520	5,800	483.33
1日平均利用人員B/A	19.2	22.7	22.4	23	23.6	23.9	23.8	24.3	22.2	21.4	22.6	22.6	22.66	22.66
月初日在籍数	35	36	36	37	37	38	38	38	38	38	37	37	445	37.08

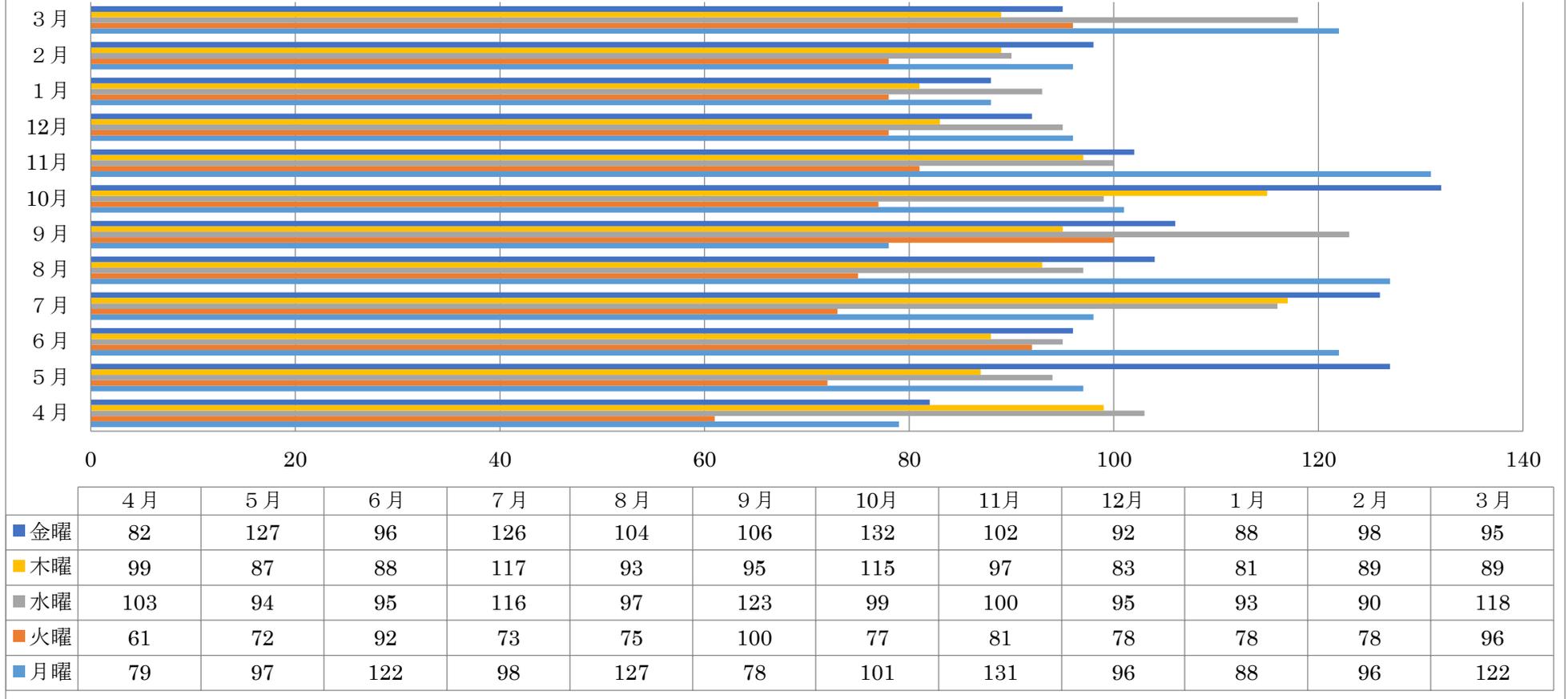
令和2年度 在宅支援対象者実績記録表

生活リハビリセンター 六三四

4 / 1 ~ 3 / 31 分

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
開所日数A	22	21	22	23	21	21	22	21	20	20	20	23	256	21.33
在宅支援対象者延実人員B	46	81	29	46	34	39	45	38	40	47	48	56	549	45.75
1日平均利用人員B/A	2.09	3.86	1.32	2	1.62	1.86	2.05	1.81	2	2.35	2.4	2.43	2.14	2.14
月初日在籍数	35	36	36	37	37	38	38	38	38	38	37	37	445	37.08

令和2年度 生活リハビリセンター六三四 年間・月間・週間曜日別通所実績表



集計：令和2年度4月～3月

月曜日：1,235人 火曜日：961人 水曜日：1,223人 木曜日：1,133人 金曜日：1,248人 計5,800人

令和2年度 開所日数及びサービス対象者通所実績記録表

生活リハビリセンター 雅

4 / 1 ~ 3 / 31 分

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
	開所日数A	22	21	22	23	21	21	22	21	20	20	20	23	256	21.33
	対象者延実人員B	253	269	279	281	226	248	261	255	242	242	212	271	3,039	253.25
	1日平均利用人員B/A	11.5	12.8	12.7	12.2	10.8	11.8	11.9	12.1	12.1	12.1	10.6	11.8	11.87	11.87
	月初日在籍数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192	16.00

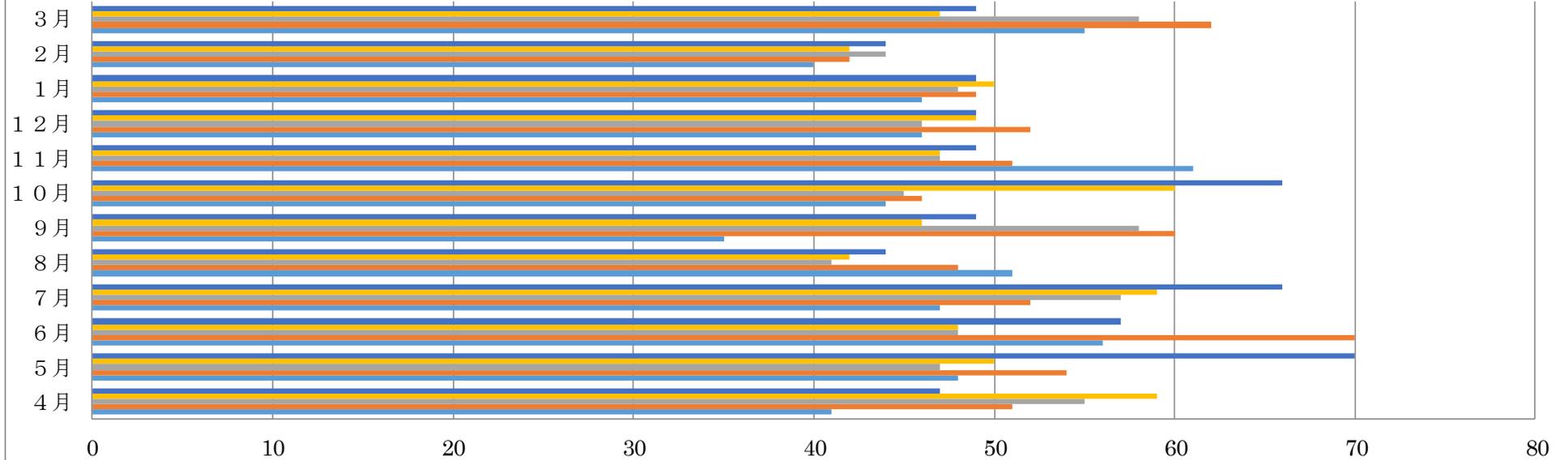
令和2年度 在宅支援対象者実績記録表

生活リハビリセンター 雅

4 / 1 ~ 3 / 31 分

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
	開所日数A	22	21	22	23	21	21	22	21	20	20	20	23	256	21.33
	在宅支援対象者延実人員B	11	31	6	3	4	3	3	10	7	13	10	1	102	8.50
	1日平均利用人員B/A	0.5	1.48	0.27	0.13	0.19	0.14	0.14	0.48	0.35	0.65	0.5	0.04	0.40	0.40
	月初日在籍数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192	16.00

令和2年度 生活リハビリセンター雅 年間・月間・週間曜日別通所実績表



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■金曜	47	70	57	66	44	49	66	49	49	49	44	49
■木曜	59	50	48	59	42	46	60	47	49	50	42	47
■水曜	55	47	48	57	41	58	45	47	46	48	44	58
■火曜	51	54	70	52	48	60	46	51	52	49	42	62
■月曜	41	48	56	47	51	35	44	61	46	46	40	55

集計：令和2年度4月～3月

月曜日：570人 火曜日：637人 水曜日：594人 木曜日：599人 金曜日：639人 計3,039人

令和2年度 開所日数及びサービス対象者通所実績記録表

生活リハビリセンター 絆

4 / 1 ~ 3 / 31 分

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
	開所日数A	22	21	22	23	21	21	22	21	20	20	20	23	256	21.33
	対象者延実人員B	344	356	373	403	372	364	382	361	349	351	347	397	4,399	366.58
	1日平均利用人員B/A	19.2	17	17	17.5	17.7	17.3	17.4	17.2	17.5	17.6	17.4	17.3	17.18	17.18
	月初日在籍数	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	277	23.08

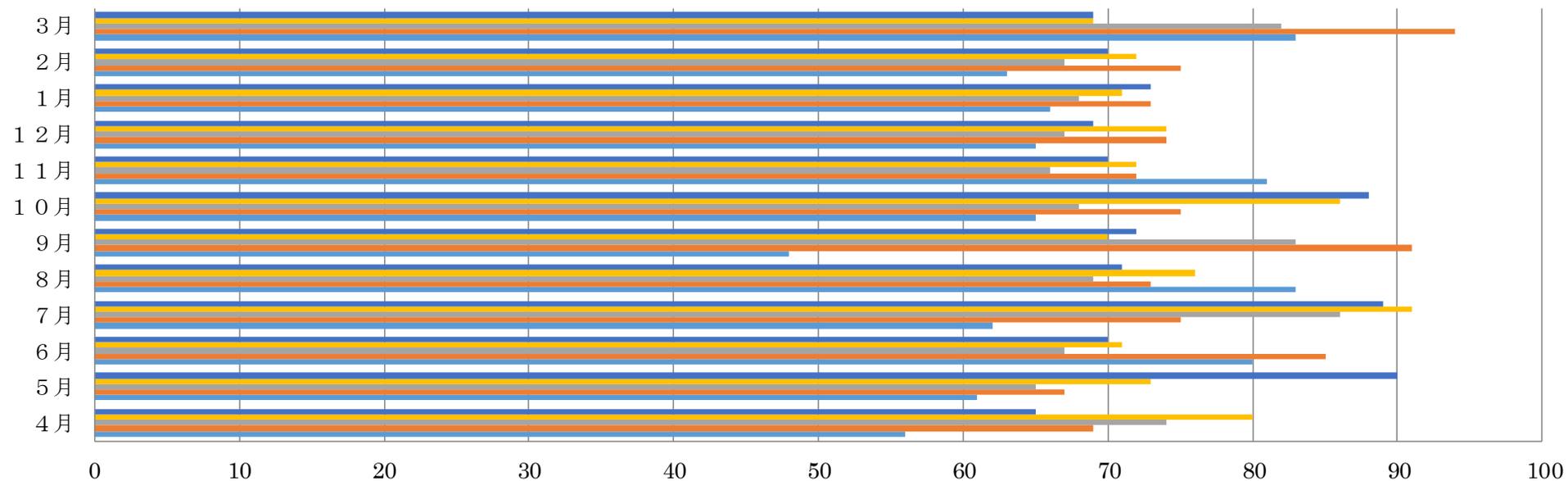
令和2年度 在宅支援対象者実績記録表

生活リハビリセンター 絆

4 / 1 ~ 3 / 31 分

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
	開所日数A	22	21	22	23	21	21	22	21	20	20	20	23	256	21.33
	在宅支援対象者延実人員B	13	19	18	31	37	8	14	23	17	24	30	39	273	22.75
	1日平均利用人員B/A	0.59	0.9	0.82	1.35	1.76	0.38	0.64	1.1	0.85	1.2	1.5	1.7	1.07	1.07
	月初日在籍数	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	277	23.08

令和2年度 生活リハビリセンター絆 週間月間通所実績表



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■ 金曜	65	90	70	89	71	72	88	70	69	73	70	69
■ 木曜	80	73	71	91	76	70	86	72	74	71	72	69
■ 水曜	74	65	67	86	69	83	68	66	67	68	67	82
■ 火曜	69	67	85	75	73	91	75	72	74	73	75	94
■ 月曜	56	61	80	62	83	48	65	81	65	66	63	83

集計：令和2年度4月～3月

月曜日：813人 火曜日：923人 水曜日：862人 木曜日：905人 金曜日：896人 計4,399人